

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
1 経営	<p>【評価できる点】</p> <p>多くの国際美術展が開催を中止もしくは延期する中で、開催にこぎつけた意味は大きい。海外の作家ともオンラインを使いながら充実した展示ができた。また、このような状況だからこそできるテーマを掲げて世界に問いかけたのは、コミッショナーの力もさることながら、国際展を着実に実行してきた横浜ならではの成果だと思う。このようなコロナ禍の状況を逆手にとって、内容を充実させたことは評価される。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>●コロナ禍において、国内外の芸術展の延期や中止が相次いだ中、大規模国際展「横浜トリエンナーレ」を開催、国内外に発信し、社会的観点からも注目を集めたことは、大いに評価できます。</p> <p>●とりわけエピソードのオンライン発信、ボランティアによるオンライントーク等も駆使して、多様な対象へトリエンナーレの魅力や興味の喚起を発信できたことも成果。</p> <p>●蔵屋新館長着任、教育普及講座のオンライン配信、3月改修閉館等、時々の美術館ニュースを広くウェブ発信し、美術館の動静を社会とタイムリーに共有できたことは、広報、外部連携の面からも評価できます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>困難な状況下で横浜トリエンナーレを無事開催できたことが、最大の成果と言えらると思います。横浜トリエンナーレの第1回開催は同時多発テロの2001年でしたが、第7回の昨年も世界的パンデミックに見舞われました。社会と芸術との関係を考える契機となりえたと思います。市および美術館を代表する芸術祭の継続性を維持することができました。トリエンナーレの図録『AFTERGLOW 光の破片をつかまえる』は画像と説明のバランスがとれた優れた作品であり、外出自粛の時宜にかなったものでした。国際的な情報発信もできたと思います。大規模改修・休館中であることについては、ホームページを通して、十分に周知されていました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>コロナ禍にありながら、7回目の「ヨコハマトリエンナーレ2020」を無事に開催することができたことは喜ばしいことであり、関係者の尽力には敬意を示したいと思う。</p> <p>来館という形態の定量的指標は伸びなかったが、コロナ禍では致し方ないこと。質的な面から評価すれば、「ヨコトリ」のコンセプト「AFTERGLOW－光の破片をつかまえる」とコンセプトを深めるための5つのソース(源泉)「独学・発光・友情・ケア・毒」の設定も巧妙であり、同時代を生きる世界の人々にインパクトあるメッセージを投げかけることができた展覧会であったと思う。</p> <p>2020年度も、政策目標(経営)「横浜美術館は国際都市横浜の魅力を引き出す。」は、質的には高評価であり、目標は達成できたと言えよう。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>新型コロナの感染拡大で国内外の多くの国際芸術祭が中止、延期される中、感染対策のみならず、作家とのオンライン打合せに基づいた作品設置などの困難を乗り越え、ヨコハマトリエンナーレを無事に開催した点は高く評価できる。アーティストディレクターの示したキーワードも含め、芸術から現代社会の諸課題と向き合おうという姿勢には共感する部分が少なくなかった。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>適正な人員体制および予算規模であったか、アーティストやコミッショナー等に十分な時間と保証を与えられたかは検証されるべき。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●コロナ禍をきっかけに、今後の様々な社会変化に対応できる国内外への発信力の強化(デジタル対応の向上と強化、人的体制強化)に期待し、更に、国際都市横浜としての魅力を牽引するためにも、海外ネットワーク構築等をより図っていただくことを期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>館外展示、他施設との連携などは、再開後も必要であると思います。改修後の企画、変化に関する情報発信を増進させる余地があると思います。ワクチン接種が浸透するとともに、利用者・市民の美術館に対する要求も内容・水準が変化してくると考えられますので、そうした変化への対応の準備があればと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>定量的指標の他に、定性的指標(成果指標)も盛り込むべき。評価は両面から行うべき。早急に指標の検討を行うことを期待している。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>大規模改修の休館期間を好機と捉え、蔵屋新館長のもとで、リニューアルオープン後の国際戦略について十分な検討・準備を進め、より積極的な取り組みへとつなげて頂きたい。休館中に横浜美術館のプレゼンスが低下することがないように、積極的な情報発信が肝要だと思われる。</p>
2 事業 ①	<p>【評価できる点】</p> <p>コロナ禍において13万人の入場者を数えたのは高評価。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>●コロナ禍、来場者数の減少は避けられませんが、オンライン活用による多様な取り組み等、アクティブに対策を講じた結果、アート界を閉ざすことなく動かし、社会の閉塞感に対応し、来場者の期待に応え、一定の成果をあげたことを評価したいと思います。</p> <p>●複数の新聞等、メディアの反応もよく、こうした様々なツールを以て、来館が難しい状況にあっても鑑賞者の裾野を拡大しています。</p> <p>●コロナ禍により遅れはあったものの、New Artist picksを実施できたことは若手アーティスト、鑑賞者双方にとって意義大きく、評価できます。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>開催期間の大幅な短縮などの影響を緩和する対策がとられていました。ウェブ発信が大幅に増えたと思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>コロナ禍にありながら、政策目標(事業①)「質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げます。」も定性的な面からは達成できたと言えよう。</p> <p>特に「トライアログ」は国内の美術館と連携してコレクションを出し合って開催された展覧会として注目を集めた。コロナ禍のため、海外の美術館のコレクション展やメディア共催展の開催が難しい中、国内の美術館が協働で開催したコレクション展は新しい企画展のあり方を国内外に示したと言えよう。こうした面を高く評価したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>新型コロナの影響で入場者数は目標を下回ったものの、アンケート結果は展覧会の内容が来場者の期待に応えたものであることを示している。トライアログ展は、コレクションの有効活用や国内美術館とのネットワーク強化の点で意義のある取り組みだったと言えよう。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>オンラインの事業展開が多く、そうした参加者をもどのようにカウントするのか。20万人の目標が適正であったか、そもそも人数を設定することに意味があるのか。文化は最大多数の興味を追求するというよりは、ダイバーシティの姿勢を反映して、それぞれの事業によって様々なアーティストの試みを丁寧に反映した価値観を市民に提示する意味が重要だと思う。それは必ずしも数に反映されない。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●質の高い展覧会の開催及び、魅力的な観せ方により、来場者の裾野拡大を図り、横浜美術館の存在感をより高めていただくことを期待します。</p> <p>●子供から大人まで“美術館のある暮らし”がより浸透するための仕掛けや工夫を期待したい。(日時指定予約チケット制導入についても成果と課題を整理いただきたい)</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>特になし。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>利用者だけでなく、企画展やNew Artist Picksのステークホルダー(関係者)からもアンケートや聞き取りを行い、展開会の質や目的の達成度を調査し、多面的に政策目標の実現度や事業の有効性を検証するようにしてほしい。</p> <p>定量的指標の他に、定性的指標(成果指標)も盛り込むべき。満足度の指標だけでなく、企画展やプログラムの目的や成果目標が達成できているかもチェックすべき。評価は両面から行うべき。早急に指標の検討を行うことを期待している。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>新型コロナは、入場者数の減少のみならず、市民や来場者の美術館や美術館に対する見方、接し方に今後とも大きな影響を与える可能性がある。企画展の内容に加え、鑑賞方法の多様化への取り組みなど、新型コロナ対応で得た経験、知見を今後の展覧会事業に活かして頂きたい。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
2 事業 ②	<p>【評価できる点】</p> <p>コレクションの活用として、他の公立美術館と協力して企画展を立ち上げたのはこれからの展覧会事業にも応用できる。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>●トライアローグ展を、愛知県美術館、富山県美術館との共同企画により、学芸員間の連動も含め、横浜美術館で開催できたことは、コレクション活用の新たな可能性を開き、今後への期待を含めて高く評価します。</p> <p>●収集候補作品の提案をはじめ、新収蔵品のデータ登録、目録公開、研究等が着実に実施され、職位に応じたOJT実施など、コレクションに関わる基盤的取組みが未来に向けて、みがかれていることも評価。</p> <p>●美術情報センターでは普及のための事業の継続が適切に実施されました。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>トライアローグ展は、新しい試みであったと思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>コレクションの収集・保存・管理・活用に関わる活動は十分に実施されており、政策目標(事業②)「魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。」についても達成できていると思う。</p> <p>特に美術情報センターの映像資料のデジタル化も順調に進んでいる点を評価したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>繰り返しになるが、トライアローグ展はコレクションの有効活用、他の美術館のコレクションへのアクセスという点で、今後の可能性を感じさせる取り組みだった。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>現代美術を扱う美術館においては毎年コレクションを購入し新たな価値を付加していかなければコレクションの陳腐化に繋がる。コレクションの活用は十分にできていると思うが、コレクションの充実が予算が少なく、寄贈に頼る仕組みに問題がある。適正なコレクション予算がついていたか。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●今後も、共同企画によるコレクション活用の国内巡回を期待し、その成果が各地館内だけでなくどまるのではなく、巡回先の地域文化の活性化や文化交流に波及し、付加価値も含めての巡回展となることを期待します。</p> <p>●学芸員の研究環境の整備に力を入れ、ソフトウェアの充実と向上を図っていただきたい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>特色あるコレクションの形成をさらに進めていただきたいと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>企画展やNew Artist Picks に出展された作品を館のコレクションとして入手できるよう、積極的かつ早め早めにアーティストと交渉をはじめてほしい。</p> <p>また、東京国立博物館の「遺贈による寄付について」のようにWEBサイトを設けて、市民などに周知させていくことも検討してほしい。</p> <p>定量的指標の他に、定性的指標(成果指標)も盛り込むべき。評価は両面から行うべき。早急に指標の検討を行うことを期待している。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>コレクションの積極的かつ有効な活用方法について、休館期間を活用したより一層の検討、準備を期待したい。(横浜市の予算措置を含め)リニューアルオープンが目玉となるような作品購入を検討できないだろうか。</p>
2 事業 ③	<p>【評価できる点】</p> <p>こどもを対象としたプログラムやボランティア、市民参加の試みは横浜美術館の歴史の中で着実に経験を積んで構築してきたことであり、非常に充実している。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>●コロナ制約の中、開催と併用して「横浜トリエンナーレ」や「トライアローグ展」でオンライン活用での適切な対応がスピーディにとられたことは、美術と市民をつなぐ創造性や持続性、美術の魅力、ウェブを介して広く市民に届けており高く評価できます。</p> <p>●とりわけ子供のアトリエ、市民のアトリエなど、教育プログラムにおけるオンラインの活用、トリエンナーレでのボランティアによるオンライントークなど、多様な対象の方々へ様々な糸口で、美術館の使命である美術と市民を繋ぐことに注力しており、大いに評価したいと思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>市民との結びつきを、様々な面から着実に進めていると思います。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>政策目標(事業③)「美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝えます。」は、コロナ禍で来館という形態で実施できなかった事業をオンラインに置き換えて実施し、つなぐ場を継続したことを高く評価したい。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>新型コロナの影響で、計画どおりの実施ができないなか、オンラインへの切り替えを含め、横浜美術館の強みである教育系プログラムの各種事業の実現に努めた点は評価できる。</p>
	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>市民との協働は、ボランティアだけではなく、様々な方法があると思う。そうした分野については国際的に研究されており、学芸員やエデュケーター同士の国際的ネットワークの構築が事業の充実にとっては不可避であると思う。そうした試みも期待したい。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●美術と市民を繋ぐ根幹には、市民協働の取組みが必須だと思います。今後大規模改修に伴う休館という環境にあっても、市民協働の取組みを継続し、チャレンジし続けていただきたい。</p> <p>●例えば、コロナ禍制約の中、トライアローグ関連の講座「王様の美術館からつむぐ物語」は、一般募集、森山未来朗読、ウェブサイト配信など興味深い発想と発信により協働の実現をみており、こうした事例からも今後、アートと市民の多様なrelation構築に大いに期待したいと思います。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>学芸員の国内外の芸術・文化関連の学会・イベントでの発表、参加のさらなる増加を期待します。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>今後も、いつでもどこでも美術館の事業に参加できる場としてオンラインを活用してほしい。また、その活動内容をデジタルアーカイブとして蓄積し、情報センターの新しいコンテンツとしても活用し、利用者の利便性を図ってほしい。</p> <p>個々人の価値観や行動に変化を与える可能性が高い事業領域だからこそ、定性的指標(成果指標)を重視すべき、定量的指標ばかりであることは大いに反省すべき。評価は両面から行うべき。早急に指標の検討を行うことを期待している。</p>	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>これまでの実績に基づいた着実な展開に加え、市民や子どもたちのニーズをくみ取った新たな展開や、美術館にアクセスできない人々「美術館弱者」へのアプローチなどへの目配りも期待したい。ただし、教育普及系の事業は手間時間も要することから、美術館のリソースを見極めた戦略が必要であり、休館期間中にこれまでの事業の振り返りや課題把握などにも取り組むことでより有効な事業の企画、立案につなげてほしい。</p>

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
3 施設 の 運 営 事 業 ①	【評価できる点】 コロナ禍をふまえ、それに対して適切な対処がされている。	【評価できる点】 ●コロナ禍にあつて、いったん休館後の開館では、新型コロナウイルスに十分配慮、対策を講じ、来館者に施設利用環境の安心安全を提供しており、美術鑑賞のおもてなしの意味からも適切であり、評価します。 ●又ショップやカフェ事業でもメニューやコーナーに工夫が見て取れ、大規模改修後についても横浜美術館ならではの特色ある施設運営を期待します。	【評価できる点】 特になし。	【評価できる点】 政策目標「お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。」をめざし、コロナ禍でありながらも、高い満足度をキープしている点を評価したい。	【評価できる点】 感染対策の着実な実施
	【更なる取組を期待する点】 警備や受付の人たちの制服等、デザイナーなどともコラボする試みも他館では行われている。他分野のお客様を呼ぶ試みとしては検討しても良いと思う。	【更なる取組を期待する点】 ●今後、コロナに関わらず、様々な生じる社会的不測の事態について、例えば企業連携プログラムにも影響がありましたが、ハード面ソフト面の両面から柔軟性をもって速やかに対応できる施設運営の将来図を描いておくことのもぞまれます。	【更なる取組を期待する点】 特になし。	【更なる取組を期待する点】 定性的指標(満足度)はあるが、もう少し多面的に定性的な面も評価できる指標を検討すべき。	【更なる取組を期待する点】 大規模改修後の来場者の期待に応えるべく、来場者サービスのさらなる充実、ショップやカフェの付加価値のさらなる向上策について、休館中に外部の専門家などを交えた検討、準備を進められたい。
3 施設 の 運 営 事 業 ②	【評価できる点】 適切な美術館運営をしている。	【評価できる点】 ●収入についてコロナ禍による減収など、やむを得ない事態になりましたが、支出面では、補助金獲得など増収に努め、又休館にともなうの事業支出、縮小などコロナ禍の影響も受けつつ、全体的に黒字決算としたことは評価に値します。	【評価できる点】 効率的な運営が行われていると思います。	【評価できる点】 政策目標「財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現します。」をめざして、大規模改修の実施に向けて、コロナ禍の中、横浜市・指定管理者ともに力を尽くしたと思う。	【評価できる点】 特になし
	【更なる取組を期待する点】 国際美術祭を定期的開催し、話題となる企画展を準備し、コレクションを充実し、ラーニングプログラムを実施するためには、人員、予算とも不十分。さらなる改善を求め。予算の不足を言うと、企業や個人からの協賛を課題に挙げられるが、寄付文化が成り立っていない日本では非常に難しい。協賛を募るなら、それなりの担当者と組織をもって臨むべきだが、例えば東京都写真美術館ではその試みを20年間やって、年間企業から1億円を得られているが、3人の職員が専任であたっている。また、協賛にはその見返りも付いてくる。協賛は僅かな補足にとどめ、美術館の事業については行政が予算措置を十分にすべきであると思う。	【更なる取組を期待する点】 ●大規模改修後は収支の内訳も変わると思われ、ファンドレイジングなど更なる財源確保による増収を積極的に図ることが求められます。	【更なる取組を期待する点】 改修休館は、再開後のショップ、カフェの運営形態について検討するよい機会であると思います。	【更なる取組を期待する点】 コレクションの充実を図り、持続可能な運営を実現するために、設置者である横浜市は責任を持って、作品購入のための基金や組織を整備してほしい。 また、リニューアルを機に所要室や設備の一部にネーミングライツを導入できるかを検討してほしい。	【更なる取組を期待する点】 大規模改修やリニューアル・オープンを企業や個人を含めたファンドレイズの好機と捉え、新たな仕組みやキャンペーンの展開などを検討できないか。
4 そ の 他 の 業 務 5 人 員 計 画 6 留 意 事 項	【評価できる点】 概ね適切に執行した。	【評価できる点】 ●政策協働の強みとして、コロナ禍のような予測にない状況についても、横浜市と館が協議しながら適正に業務遂行できたこと、また感染拡大防止にともなう政策経営協議会の回数減はあるものの、業務遂行につとめたことも評価します。 ●コロナ禍にあつても、高い専門性を持つ優れた組織体として適確に事業展開をされたことは評価に値します。	【評価できる点】 特になし。	【評価できる点】 政策目標の達成をめざして、コロナ禍の中、横浜市・指定管理者ともに力を尽くしたと思う。	【評価できる点】 特になし
	【更なる取組を期待する点】	【更なる取組を期待する点】 ●今後も政策協働の観点から、館と横浜市が互いにその専門性や強みを活かしつつ協働し、市民協働についても反映、優れて創造性や持続性ある管理運営の実現を期待したい。	【更なる取組を期待する点】 政策協働なればこそと言える成果を外部に発信していただきたいと思います。	【更なる取組を期待する点】 指標が会議回数だけなのかが気になる。他にないか検討してほしい。	【更なる取組を期待する点】 大規模改修に伴う休館期間を好機と捉え、国内外の美術館のリサーチ、学芸員との交流など、通常運営期には難しい取り組みを含め、学芸員、職員の知識・能力の向上、強化に努められたい。

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
7 収 支 計 画	【評価できる点】 概ね適切に執行した。	【評価できる点】 ●収支については、新型コロナウイルス禍により事業収入減がありました。補助金の獲得に努めるなど増収への取り組みを評価します。 ●支出については事業減による関連費用の削減等、諸般の結果黒字決算となっています。	【評価できる点】 HPに毎年度の収支報告書がアップされており、収支の動向を外部から把握できるように整理されています。本年度は、様々な制約がある中、予算の範囲内で運営出来た点は評価できます。	【評価できる点】 コロナ禍の中、事業収入が減少したが、補助金を積極的に獲得し活用した点を評価したい。外部資金を調達できたことは、マネジメント能力の高いことを示していると言えよう。	【評価できる点】 特になし
	【更なる取組を期待する点】 全体的に予算が不足。	【更なる取組を期待する点】 ●外部資金の獲得、また可能であれば当該美術館として市民によるファンドを作るなど、恒常的に健全な経営を維持するためのファンドレイジングについて積極的な工夫や仕組みが必要。そのためには、社会の共感を得る、横浜美術館ならではの本質的な魅力を以て訴求するパワーが必要だと思います。	【更なる取組を期待する点】 HP上に開示してある収支報告書からは、将来に向けての活動計画は把握できません。市との指定管理料の折衝では、本来、そうした将来へ向けての投資的な資金についての説明が必要であるはず。外部に開示する収支報告には記載する必要はありませんが、内部の財務資料として準備・分析が必要であると思います。	【更なる取組を期待する点】	【更なる取組を期待する点】 特になし

	笠原委員	西田委員	丸山委員	村井委員	吉本委員
総 括	<p>コロナ禍において、文化の価値は高まっている。それはブロックバスター展を開催して人集めをすることではない。市民の心の何らかの支えになるのが文化の役割だと思う。そのような文化の担い手としての美術館は、入場者数に踊らされずに、地道ではあるがアーカイブを築き、コレクションを充実させ、入場者は少なくとも未来において意味のある企画展を開催していただいたい。また、それができるような準備期間と人員、予算規模が必要である。市民への還元という観点から言っても、いつまでもグローバル・スタンダードに照らしても質の高い展示を身近で鑑賞・体験できることは、長い年月の中で文化度の点から多くの違いをもたらす。職員にとって仕事のやりやすい環境および予算によって、評価の高い事業をし続けることを望む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に於ける大規模国際展「ヨコハマトリエンナーレ2020」の無事開催、及び、愛知、富山各県立美術館と共同企画の「トライアログ展」におけるコレクションの有効活用は画期的であり、高く評価したいと思います。 ・更にオンラインやアウトリーチ活用により、様々な糸口でアートと鑑賞者を繋ぎ、コロナ禍、多様な人々にアートの世界を提供できたことの意義は大きく、教育普及も含め、今後への期待も高まります。 ・市民協働については、上記ボランティアによるオンライントークなど新しい動きがみられ、着実に進捗しつつあります。 ・今後は、単にメニューを用意するだけでなく、市民のアートに対する願いや主体性、発意を経営に巻き込んでいくことが、改修後の横浜美術館の新しいステージを構築するのに大切だと思います。 ・美術館は市民のものとして愛着や誇りを持つことの実現を期待し、その希望の予感が持てる令和2年度管理運営だったと思います。 ・終わりに、横浜美術館が高い専門性を持つ優れた組織体であることを遺憾なく発揮し、コロナ禍に動じることなく、アートを通じて社会を元気にする美術館の使命に館総力を挙げて取り組み、閉塞感の漂う社会や、人々に潤いをもたらしたことを高く評価したいと思います。 	<p>これまでに経験したことのない困難な状況下での運営でしたが、予定通りトリエンナーレも開催され、改修も着手されました。大きな問題は発生していないようです。ウェブサイトからの情報発信が大幅に増加し、「休館中でも活動中」であることが十分に伝わったのではないかと思います。</p>	<p>「ヨコハマトリエンナーレ2020」「トライアログ」は大変質の高い事業であり、コロナ禍における展示会のあり方を国内外に示唆するものだったと思う。さらに教育普及事業はオンラインやアウトリーチ活動で市民と美術を「つなぐ場」を継続した点も評価したい。</p> <p>来館という利用形態の定量的指標ばかりのため、コロナ禍においては、満足度やメディアでの掲載数以外の指標は目標値には達成していないが、どの事業も施設の管理運営も質的には高く評価すべき内容であったと思う。</p> <p>コロナ禍を契機に、自分達が行っている事業やマネジメントを正當に評価してもらえるような指標に改変すべきだと思う。早急に指標の見直しを行ってほしい。</p> <p>これまで横浜市と横浜美術館は政策協働の二人三脚で事業を進めてきたが、市民協働についてはまだまだ足りない気がする。マーケティング、コンテンツ開発、コレクションの充実など、リニューアルを機に市民力を事業全体に反映できるよう、仕組みづくりや取り組みを推進してほしい。</p> <p>最後に、横浜市に疑問を投げかけたい。この評価表の名称が「横浜美術館指定管理業務評価表」となっているが、本委員会では(少なくとも私は)、政策協働による政策目標の達成度を評価しているので違和感を感じる。庁内横並びで決まっている名称かもしれないが、横浜美術館は括弧付けでもいいので「事業評価」と付記する気概を見せてほしい。</p>	<p>事業や運営全般にわたって新型コロナの多大な影響が出る中、ヨコハマトリエンナーレの開催に代表されるように、学芸員、職員の尽力によって乗り切った1年だったのではないか。その間に得た有形・無形の経験や知見をリニューアル・オープン後の美術館の運営や事業に活かして頂きたい。</p> <p>例えば、オンラインやARなどに加え、コレクションのデジタル化も含め、美術館の新たなリソースとしてIT技術の専門家などを交えた活用方法、展開方法を検討することもひとつのアイデア。</p> <p>また、ヨコハマトリエンナーレで実施した「チケットの事前予約」の仕組みをリニューアル・オープン後に活用することで、入場者数が過多にならないより良好な鑑賞環境を整えることも可能ではないか。</p>

令和2年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

（1）国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。
 （2）美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。
 （3）未来をにた子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。
 （4）文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様な豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

項目	評価項目	令和2年度計画		実施状況		説明		
		目標の実践	達成指標	実績	説明			
1 経営	(1) 横浜トリエンナーレ「重点的な取組み」	●横浜トリエンナーレ2020の実施	130,000人[再掲]	73,782人	-	*コロナ禍影響*		
		●コレクションパッケージ展あるいは企画展の海外送	大規模改修後に向けた準備	実施	-	*3期提案書案にて検討結果報告		
		●海外インターン受入	1回/年	0回/年	-	*コロナ禍影響*		
		●日英での展覧会の会場パネル、カタログ作成	1回/展	1回/展	B	*会場パネルは冒頭パネルと章パネルを日英併記 *カタログは概要、奥付、挨拶、作品リストを日英併記		
		●日英での記要の発行	1回/年	1回/年	B	*3/22発行(サマリーを日英併記)		
		●外国人団体向けボランティア・トーク(再掲)	1回/年	3回/年	A	-		
		●日英での展覧会プレスリリース作成	1回/展	1回/展	B	-		
		●海外メディアへの展覧会プレスリリース送付	1回/展	1回/展	B	-		
		●海外メディアへの展覧会招待状送付	1回/展	1回/展	B	-		
		●海外美術館者の把握	適任	適任	B	*滝川展、ヨコリ、トライ展(ご案内)		
		(3) 広報	●展覧会および全館広報などの通常業務	実施	実施	-	-	
			□露出件数	700件/年	3,158件/年	A	-	
			□ウェブサイトアクセス数	4,700,000件/年	4,791,824件/年	B	-	
			●首都圏と横浜の各々に焦点をあてた広報	1回/年	1回/展	B	*首都圏:11月東京国立近代美術館「眠り眼」相互割引(トライ展) *横浜:11月横浜ロイヤルパークホテルダイアップメニュー(トライ展)	
		15	(3) 広報	●ウェブを活用した全館広報	1回/年	3回/年	A	*4/21館長兼任動画配信 *10/6教育普及「オンラインで楽しむ!エデュケーション・チャンネル」公開 *3/1 休館ウェブサイト公開(休館挨拶動画公開)
				●専門館連携あるいは外部連携をしつつ、専門性を活かした横浜市推進事業との連携し、オリジナルの高い事業を実施	4回以上/年	4回/年	B	*8/24,8/15 1ドルコンサート-hatHome観るのフーゾーン配信【みみなみ】 *10/11「ホール連携」(オンライン)(再掲) *1/23クラシックヨコハマ[市連携] *1-3月オトヨコハマパートナーイベント[市連携]
2 事業	(1) 企画展	●澁川喜一【会期:2/15-5/24・86日間】	25,000人(290人/日)	2,691人(224人/日)	-	*会期:2月15日(土)-2月28日(金)・12日間 *コロナ禍影響*		
		●ヨコハマトリエンナーレ2020【会期:7/3-10/11・90日間】	130,000人(1,444人/日)	73,782人(946人/日)	-	*会期:7月17日(金)-10月11日(日)・78日間 *コロナ禍影響*		
		●トライアローク【会期:11/14-2/28・87日間】	50,000人(574人/日)	41,674人(479人/日)	-	*コロナ禍影響*		
		●企画展アンケート	4.0以上/年	4.46/年	A	-		
		(2) New Artist Picks	●New Artist Picks 入場者数	3,000人(メイン会場)	2,812人(メイン会場) 4,500人(全会場)	B	*コロナ禍影響*	
			把握	1回/年	1回/年	B	-	
			●コレクションの形成、保存に関する通常業務	実施	実施	-	-	
			●コレクションの活用	-	-	-	-	
		政策目標(事業②)魅力的なコレクションを形成、活用するとともに、未来へ継承します。	(1) コレクション	●1期【会期:2/15-5/24・86日間】	27,000人(313人/日)	3,600人(300人/日)	-	*会期:2月15日(土)-2月28日(金)・12日間 *コロナ禍影響*
				●2期【会期:11/14-2/28・87日間】	55,000人(632人/日)	45,498人(523人/日)	-	*コロナ禍影響*
				●コレクション展アンケート	4.0以上/年	4.12/年	B	-
				●コレクション展広報物の作成	1回/年	1回/年	B	*11月コレクション展2期(新聞広告)
				●コレクション画像撮影と公開	撮影	実施	-	-
				●コレクション国内巡回展	実施にむけ調整	実施	-	-
				●収集、分類、保管、利用者提供などの通常業務:利用者数	30,000人/年	4,745人/年	-	*コロナ禍影響*
				●普及のための事業	5回/年	5回/年	B	*7/17-9/2,9/4-2/28特別資料展示2件 *7/17-2/28,7/17-8/5,8/7-2/28関連資料コーナー3件
●所蔵映像資料デジタル化	作業計画/著作権クリア			実施	B	*9月 教育ビデオの外部調査		
17	(3) 調査・研究			●記要の発行(論文3本以上、日英併記、販売検討)[再掲:日英併記]	1回/年	1回/年	B	*3/22(日)オンライン公開

自己評価	評価	
	自己評価	行政評価
【成果】 各7回目として初めて海外からアーティスト・ディレクターを迎え、コロナ禍における国内初の大規模な芸術祭として大きな混乱なく開催することができ、五大紙すべてに展評が掲載され、とりわけ、キーワードの一つである毒とコロナ禍を重ねてアートの予言カへの言及が多くみられるなど、美術展としてのみならず社会的な観点からも注目を集めました。 【課題】 -美術館を拠点に4回開催してきましたが、今後、一層発信力を高めつつ、持続的に開催していくためには、組織体制の強化、人材の確保、会場の安定的確保等の課題を 横浜市、財団と協力して解決していく必要があります。	【評価できる点】 *新型コロナウイルス感染症により、多くの国内外の大規模な国際芸術祭が延期や中止を迫られる中、ヨコハマトリエンナーレ2020を大きな混乱なく開催したことを評価します。 *とりわけ、ヨコハマトリエンナーレ2020を国内外に広く発信し、美術展のみならず、社会的な観点からも注目を集めた点を高く評価します。 *新型コロナウイルスへの対応として、オンラインでの外部連携事業を行うなど様々な工夫がみられました。 【更新の取組を期待する点】 *自前年度より海外からの連携に向けた取組の継続や充実を期待します。 *大規模改修中、海外からの連携に向けた取組の継続や充実を期待します。 *令和年度以降の大規模改修期間中、タイラーワークウェブサイトにアクセスする方々の期待に沿ったコンテンツの提供が、ウェブアクセス数の増加につながることを期待します。	
【成果】 -継続して行ってきたJICAおよび国立民族学博物館による博物館学国際研修の受入はコロナ禍のため中止となりましたが、それ以外はオンラインで実施するなど計画通り実施しました。 【課題】 -新型コロナウイルス感染拡大により、人的・ソフト的な交流を具体的に検討するのが難しくなっています。そうした状況下で、以下の取組を継続していくことが課題と考えます。 ①国際巡回:IEO(International Exhibitions Organizers会議)のZOOM会議に継続的に参加し、情報収集や意見交換の機会を確保する。 ②海外インターン受入が困難な現況に鑑み、海外ネットワーク構築の強化に重点を置く。 ※ICOM、CIMAMの会員となり、全職員が世界の美術館の動向を継続的に調査・把握できる体制を整えました。	【更新の取組を期待する点】 *海外インターン受入が困難な現況に鑑み、海外ネットワーク構築の強化に重点を置く。 ※ICOM、CIMAMの会員となり、全職員が世界の美術館の動向を継続的に調査・把握できる体制を整えました。 【成果】 4月は館長兼任、10月はコロナ禍を踏まえて教育普及講座のオンライン配信、3月は閉館など、例年がない全般的な出来事について時機を捉えてウェブで効果的に発信しました。 【課題】 -新たなメディアを活用しながら、効果的に休館中の活動を発信することや、再開館を見据えたウェブサイトのリニューアルを行う必要があります。また、館の発信力を高めるために人的体制を整えることも重要な課題であると考えます。	
【成果】 -コロナ禍に対応してオンラインで事業を実施するなど、計画を達成しています。 【課題】 -再開館後の外部連携の方針について、美術振興に加え、収益性、にぎわいの創出、市の政策への寄与などの観点から検討することが課題と考えます。	【成果】 -再開館後の外部連携の方針について、美術振興に加え、収益性、にぎわいの創出、市の政策への寄与などの観点から検討することが課題と考えます。	
【成果】 *来場者数については、企画展合計の目標20.5万人に対し、実績は133,552人(65.1%)と、コロナ禍のため大きく下回りました。具体的要因としては、澁川展では2/29からの全館休館による会期の大幅な短縮、横浜トリエンナーレでは開幕を遅らせたことによる会期の短縮とともに日時指定予約チケット制の導入による入場者数制限、トライアローク展でも引き続き日時指定予約の導入による入場者数制限がありました。 *日本経済新聞回欄(12/7)、読売新聞回欄(12/9)、毎日新聞回欄(12/10)、朝日新聞回欄(12/22)、産経新聞(12/28)では、横浜トリエンナーレについてはアートの予言カや国際芸術祭の定着という観点から、トライアローク展についてはコロナ禍におけるコレクションへの注目の気運として取り上げられました。 【課題】 -企画展については、メディア共催展が東京の一部の地区に集中し始めており、そうした大規模展によって横浜美術館の従来の来場者数を維持することが難しくなっています。その状況を踏まえ、展覧会の質的レベルの高さと収支バランスの両立を目指した新たなスキームづくりに取り組むことが喫緊の課題と考えます。	【評価できる点】 *来場者数については、企画展合計の目標20.5万人に対し、実績は133,552人(65.1%)と、コロナ禍のため大きく下回りました。具体的要因としては、澁川展では2/29からの全館休館による会期の大幅な短縮、横浜トリエンナーレでは開幕を遅らせたことによる会期の短縮とともに日時指定予約チケット制の導入による入場者数制限、トライアローク展でも引き続き日時指定予約の導入による入場者数制限がありました。 *また、アンケート結果からは、来館者の期待に応えられていたことが確認できました。 *新型コロナウイルスの影響で前年度、実施できなかったNAPについて、同じ作家で新作を加えるなど、内容をさらに充実させつつ開催したことを評価します。 【更新の取組を期待する点】 -日時指定予約チケット制では、インターネットの利用環境がない方やクレジットカードを持たない方等への対応が課題になりました。 -日時指定予約の導入により1日あたりの来館者の受入に限られる中、各展覧会の会期終盤の定休日開催とするなど、来館ニーズに応じた休館日の設定の検討をお願いいたします。	
【成果】 -コレクションの形成 -収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。 -コレクションの保存 -定期的な収蔵庫内の点検と清掃を実施し、庫内環境の保全に努め、収蔵庫の状況について現状の課題を市と共有しました。 -新収蔵品のデータを登録し、目録として公開し、広く研究に貢献しました。 -コレクションの活用 -来場者数については、コレクション展合計の目標8.2万人に対し、実績は49,098人(59.9%)と、企画展との兼ね合いで、目標を大きく下回りました。 -コレクション国内巡回については、トライアローク展が来年度2つの共同企画館に巡回し、また大規模改修中の当館コレクション館外展覧会の実施に向け調整しています。 【課題】 -大規模改修に伴う収蔵庫の拡充など環境の整備と文化基金の充実が課題と考えます。 -大規模改修期間中のコレクションの保管・搬送方法とあわせて活用の検討が課題です。	【評価できる点】 *コレクション活用として、愛知県美術館、富山県美術館と共同企画してトライアローク展を横浜美術館で開催し、大きな成果を挙げました。 *また、大規模改修中のコレクション館外展覧会の実施に向け調整を行っており、今後の展開に期待します。 *美術情報センターの所蔵映像資料デジタル化では、昨年度に策定した計画に基づき実施されていることを評価します。 *新型コロナウイルスの影響下でも、美術情報センターでは、特別資料展など普及のための事業を継続できました。 【更新の取組を期待する点】 *美術情報センターの利用者は、目標に対する利用者が15.8%で、60%前後にとどまった企画展やコレクション展と比べても新型コロナウイルスの影響が顕著でした。新型コロナウイルス対策により、展覧会から美術情報センターへの動線が閉じた影響が大きかったと思われませんが、対応に工夫があれば結果が違っていた可能性があります。 *美術館の休館期間を活用した調査研究の一層の充実を期待します。	
【成果】 -美術情報センターでは、30,000人の目標に対し、4,745人(15.8%)と、コロナ禍により大きく下回りましたが、普及のための事業は 計画どおり実施しました。 -そして、所蔵映像資料デジタル化については、昨年度策定した大規模改修を含めた今後の計画に基づき進めています。 【課題】 -環境の整備と効率的で質の高い事業の継続的な提供が課題と考えます。	【成果】 -美術情報センターでは、30,000人の目標に対し、4,745人(15.8%)と、コロナ禍により大きく下回りましたが、普及のための事業は 計画どおり実施しました。 -そして、所蔵映像資料デジタル化については、昨年度策定した大規模改修を含めた今後の計画に基づき進めています。 【課題】 -環境の整備と効率的で質の高い事業の継続的な提供が課題と考えます。	
【成果】 -職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。 -研究紀要では、紀要(サマリー)の日英併記を徹底し、一層の発信強化を実現しています。 【課題】 -学芸員の研究活動を確保できるよう、研究環境の整備が課題となります。 -現在の紀要は、サマリーを和英で掲載しています。将来的には、全文を英訳し広く海外に当館の研究成果を発信するための財源の確保が課題と考えます。	【成果】 -職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。 -研究紀要では、紀要(サマリー)の日英併記を徹底し、一層の発信強化を実現しています。 【課題】 -学芸員の研究活動を確保できるよう、研究環境の整備が課題となります。 -現在の紀要は、サマリーを和英で掲載しています。将来的には、全文を英訳し広く海外に当館の研究成果を発信するための財源の確保が課題と考えます。	

令和2年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

（1）国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。
 （2）美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。
 （3）未来をにぎ子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。
 （4）文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

項目	評価項目	令和2年度計画		実績状況				
		達成指標	目標	実績	説明			
政策目標(事業③)美術と市民を様々な系目でつなぎ、美術の魅力を伝えます。	18 (1)教育プログラム:鑑賞教育【重点的な取り組み】	●企画展	5回/展	5~15回/展	A	澄川展:5回/展 ・トーク2/22アーティスト対談、4-7月3プログラム配信(オンライン) ・その他:2/23作家ワークショップ(再掲) ヨコリ:15回/展 ・エピソード:前年度11/30~10/17等~10&X(一部オンライン) ・講演会:8/4日産アートワード連携パネルディスカッション(オンライン) ・その他:8/23・2/28中高生プログラム(主にオンライン)、9/19,10/25ろう者鑑賞ワークショップ(オンライン) トライ展:5回 ・ギャラリートーク:1/9,16,2/13 ・講演会:11/14 ・その他:12/21鑑賞アプリ		
		追加	・【追加実績】	-	-	-	-	
		追加	●コレクション展	5回/展	6~6回/展	B	1期:5回 ・トーク:3-5月5プログラム配信(オンライン) 2期:6回 ・ギャラリートーク:11/20,25,30 ・トーク:12/16 3プログラム配信(オンライン)	
		追加	●人材育成事業	2回/年	5回/年	A	・アートディレクターズ:8/1,29ヨコリ(オンライン),12/52期(オンライン) ・教師向け研修:12/23 横浜市芸術文化プラットフォーム、2/17横浜市立中学校教育研究会美術科部会	
		追加	●ボランティヤによるトーク	-	-	-	-	
		追加	・個人向け	1回/年	5回/年	A	・9/16,21各2回,10/71回 ヨコリ計5回(オンライン)	
		追加	・外国人向け	1回/年	8回/年	A	・9/26,10/2ヨコリ英語公開,中国語1回(オンライン) ・語体向け:8/21~10/9&金・土ヨコリ(オンライン) ・8/23・ヨコリ12プログラム配信(オンライン) ・9/1,4,6ヨコリOnTime参加者向け	
		追加	・【追加実績】	-	-	-	-	
		追加	22 (2)教育プログラム:子どものアトリエ	●個人むけ講座や学校向けプログラムなどの通常業務:利用者数	20,000人/年(3月休室)	1,041人/年	A	・【再掲:研修1回】 ＊コロナ禍影響＊
		追加	23	●アーティストあるいは外部専門文化機関との連携	2講座(個人講座20講座のうち)	0講座/年	-	＊コロナ禍影響＊
		追加	24	●学校プログラム、人材育成事業	2講座,3校	0校	-	・学校プログラム:20校 ・人材育成:9/9,10/28,11/25県内私立幼稚園向け研修(オンライン) ＊コロナ禍影響＊
		追加	追加	・【追加実績】	-	3件	A	・6/24,8/15 1日コンサートat Home親子のフリースクール【みなどみらいホール連携】(オンライン) ・8/25作家ワークショップ(ヨコリ・みなどみらい本町小) ・10,1月 教育普及「オンラインで楽しむ!エデュケーション・チャンネル」各4プログラム配信(1月:トライ展)
		追加	25 (3)教育プログラム:市民のアトリエ	●鑑賞に関する講座や展覧会と連携した講座などの個人向けワークショップに加え、自主的に制作に取り組むオープンスタジオなどの通常業務:利用者数	4,800人/年(3月休室)	2,751人/年	A	・鑑賞:11/3&21アップ(オンライン) ・展覧会連携:2/23作家ワークショップ(澄川展)【再掲】、7/19~10/11&8/30作家ワークショップ&トーク(ヨコリ一部オンライン),12月 技法映像3プログラム&1/22作品による物語朗読4プログラム配信(トライ展・オンライン)【一部再掲】、12/13作家ワークショップ(瀬瀬展・オンライン) ＊コロナ禍影響＊
		追加	26	●著名アーティスト連携による新分野講座	2講座/年	3講座/年	A	・2/23作家ワークショップ(澄川喜一) ・11/14・1/22収蔵品の物語募集&朗読映像(森山未来)(オンライン) ・2/21ライブアートワーク(畠山直哉)(オンライン)
		追加	27	●東京藝術大学連携講座 ※中期3期:1講座/2年	1講座/年	-	-	-
		追加	28	●横浜市芸術文化プラットフォームによる学校連携	3回/年	4回/年	A	・9/8菅田中学校 個別支援学級(シッター・プラクティショナー) ・10/28, 11/4,18永田台中(エデュケーター) ・11/16神奈川中学校(シッター・プラクティショナー) ・1/19,26,2/2本郷中(ヨコリ作家)
		追加	追加	・【追加実績】	-	1件	A	・11-1月 教育普及「オンラインで楽しむ!エデュケーション・チャンネル」8プログラム配信(再掲)
		追加	29 (4)市民協働:ボランティヤ等	●子どものアトリエボランティヤ	20人/年	27人/年	A	・4/1-3/31
追加	30	●鑑賞ボランティヤ	80人/年	81人/年	B	【ビジターサービスボランティヤ含む】 ・前年度4月-3/31		
追加	31	●ビジターサービス	-	-	-	-		
追加	31	・横浜シニアガイド協会等と連携した活動	2回/年	2回/年	B	・12/19NPO法人ローレルによる障がいのある方と共につくる芸術活動の研修(オンライン) ・2/14横浜市内による都市計画の研修(オンライン)		
追加	32	・外国人、障がい者、視覚案内へのきめ細やかな対応を行なうビジターサービス:ボランティヤの推進検討	10人/年	81人/年(再掲)	-	81人/年(ビジターサービス:ボランティヤ含む)【再掲:鑑賞ボランティヤ】		
追加	33	●外部組織との新たな協働関係の検討	検討	実施	B	・3期提案書案にて検討結果報告		
追加	34 (5)市民協働:コレクション・フレンズ	●参加者数の拡大	大規模改修後に向けた準備	実施	B	・11月他館調査(オンライン)		
追加	35 (6)市民協働:各種社会貢献事業	●アウトリーチ	-	-	-	-		
追加	36	・病院等	2回/年	0回/年	-	＊コロナ禍影響＊		
追加	36	・福祉施設	1回/年	2回/年	A	・9/15 研修@K2インターナショナル(オンライン) ※9/23,10/6鑑賞とワークショップ@当館 ・1/26研修@K2インターナショナル【南部ユースプラザ&ユースワークふじさわ】 ※2/16鑑賞とワークショップ@当館		
追加	37	・高齢者施設	1回/年	0回/年	-	※11/19研修@横浜国立大学連携(オンライン) ＊コロナ禍影響＊		
追加	38	●人材育成	-	-	-	-		
追加	38	・子どものアトリエ インターンシップ	5名/年	7名/年	A	・4/1-3/31		
追加	39	・教師のためのワークショップ	2回/年	0回/年(再掲)	-	・再掲:子どものアトリエ		

項目	評価	
	自己評価	行政評価
【成果】	・鑑賞教育については、コロナ禍の影響を大きく受けましたが、計画通り実施しました。澄川展およびコレクション展1期のプログラムは展覧会期間が大幅に短縮になったものの急速オンラインで実施しました。横浜トリエンナーレではオンラインを主軸に開催し、トライアログ展およびコレクション展2期ではオンラインを併用して実施しました。 ・特に、横浜トリエンナーレでは、展覧会と並行して展開されたエピソードの多くをオンラインで展開し、また他館に先駆けてボランティヤによる個人、団体、外国人等に向けたオンライントークを実現するとともに、中高生、ろう者、若者支援施設、教師、学校といった様々な方にもけた鑑賞プログラムを主にオンラインで提供しました。	【評価できる点】 ・鑑賞教育については、新型コロナウイルスの影響で対面での開催が難しく状況となる中、オンラインを活用してプログラムを実施し続けた点を高く評価します。 ・子どものアトリエ、市民のアトリエは新型コロナウイルスの影響を大きく受けたものの、オンラインを活用して年度後半にはプログラムを再開したことを評価します。 ・トライアログ展の関連プログラムとして実施した、所蔵作品にまつわる物語の募集では、市内の小・中学校、高校も巻き込み、1,000名以上の応募があるなど多くの反響がありました。 ・市民協働では、オンラインを活用してボランティヤ活動をした点、オンラインを併用したアウトリーチを行った点を評価します。
【課題】	・鑑賞教育は、毎年新しい事業に挑戦し、メディアや美術館関係者の注目を集めています。その分当初想定していたよりも人的稼働がかかっています。現在は、予算に制限があるため、アルバイトを継続的に雇用することで対応しています。利用者の信頼のもと質の高い鑑賞プログラムを継続的に実施するため、作品に関する知識や経験、コレクションの調査研究、教育学等に基礎付けられた知見の継承が必要となる人材の確保、長期に渡る育成が課題です。 ・従来取り組んできた手法に加え、オンラインなどの活用など、その時代や状況に即して多くの人に参加していただけるプログラムの開発や展開が課題です。	【更なる取組を期待する点】 ・新型コロナウイルスの影響で、7月ごろまで教育プログラムや市民協働の活動が一部を除いてストップし、不測の事態に対する備えについて見直す機会となりました。令和2年度の実績を次年度以降も活かすことを期待します。 ・大規模改修に伴う休館中も市民協働の継続的な取組をお願いします。
【成果】	・子どものアトリエは20,000人の目標に対し1,041人(5.2%)とコロナ禍のため大きく下回りました。その要因は、今年度当初から8月末までのアトリエ講座の中止および親子のフリースクールの今年度全ての中止です。 ・しかしながら、9月以降対策を講じて通常講座を開始するとともに、8月以降には徐々にオンライン講座の提供を開始し、10月以降には教育普及講座のオンラインのサイトへ定期的にプログラムを提供しました。	・しかしながら、9月以降対策を講じて通常講座を開始するとともに、8月以降には徐々にオンライン講座の提供を開始し、10月以降には教育普及講座のオンラインのサイトへ定期的にプログラムを提供しました。また、横浜トリエンナーレでは学校に向けた作家等のワークショップについては、学校に向かい開催しています。
【課題】	・時代によって変わっていく社会環境の中、子どもたちの成長に不可欠な活動として時代に即した手法で造形講座を実施する必要があります。利用者の信頼のもと質の高い造形プログラムを継続的に実施するため、子どもへの対応、造形に関する知識や経験、コレクションの調査研究、教育学等に基礎付けられた知見の継承が必要となる人材の確保、長期に渡る育成が課題です。 ・従来取り組んできた手法に加え、オンラインなどの活用など、その時代や状況に即して多くの人に参加していただけるプログラムの開発や展開が課題です。	【課題】 ・時代によって変わっていく人々と美術をつなぐことを通じて、様々な人が集い感性を高め合う場を実現するため、社会的動向に即した造形のプログラムを実施する必要があります。利用者の信頼のもと質の高いプログラムを継続的に実施するため、造形に関する知識や経験、コレクションの調査研究、教育学等に基礎付けられた知見の継承が必要となる人材の確保、長期に渡る育成が課題です。 ・従来取り組んできた手法に加え、オンラインなどの活用など、その時代や状況に即して多くの人に参加していただけるプログラムの開発や展開が課題です。
【成果】	・市民のアトリエは4,800人の目標に対し2,751人(57.3%)と、コロナ禍のため大きく下回りました。その要因は、今年度当初から8月末までのアトリエ講座の中止です。 ・しかしながら、9月以降対策を講じて通常講座を開始するとともに、8月以降には徐々にオンライン講座の提供を開始し、10月以降には教育普及講座のオンラインのサイトへ定期的にプログラムを提供しました。特に、横浜トリエンナーレでは、作家ワークショップを主にオンラインで提供しました。また、トライアログ展の関連プログラムとして実施した「王様の美術館」からつむぐ物語と題した講座では、作品から喚起される物語を広くの方から募集し、森山未来さんが朗読した入選作品をウェブサイトで配信するなど、オンラインを活用したユニークな試みを行いました。	【課題】 ・時代によって変わっていく人々と美術をつなぐことを通じて、様々な人が集い感性を高め合う場を実現するため、社会的動向に即した造形のプログラムを実施する必要があります。利用者の信頼のもと質の高いプログラムを継続的に実施するため、造形に関する知識や経験、コレクションの調査研究、教育学等に基礎付けられた知見の継承が必要となる人材の確保、長期に渡る育成が課題です。 ・従来取り組んできた手法に加え、オンラインなどの活用など、その時代や状況に即して多くの人に参加していただけるプログラムの開発や展開が課題です。
【成果】	・ボランティヤについては、子どものアトリエのボランティヤは活動の中心となるフリースクールが中止となりましたが、鑑賞ボランティヤは横浜トリエンナーレでのオンライントークで活躍しました。 ・外部組織との新たな協働関係については、大規模改修後のあり方を検討しています。	【課題】 ・ボランティヤルームなどの環境の整備をし、より効率的で質の高い事業を継続的に提供していくことが課題です。
【成果】	・コレクション・フレンズは、オンラインで他館調査を行なうなど、大規模改修後にむけた調査を行いました。	【課題】 ・美術館協力会との関係を活かし、館を市民が支えてくださる仕組み作りが課題と考えます。
【成果】	・アウトリーチについては、コロナ禍により病院や高齢者施設に向向くことはできませんでしたが、これまで連携してきた大学や福祉施設については、オンラインを併用し、研修や鑑賞を行いました。	【課題】 ・社会的に期待の高い取組のため、改善すべき事項や効果を検証し、そのノウハウを着実に蓄積することが課題と考えます。

令和2年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命
 (1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。
 (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。
 (3) 未来をにわたり子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。
 (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様な豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和2年度計画		実績状況		説明		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績				
3 施設運営事業	政策目標(施設運営①)お客様目線とおおむねの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行います。	(1) 来館者サービスの充実	●四つの基本方針に確った来館者サービス業務	—	—	—		
			①顧客サービスの質向上	実施	実施	B	1) 委託会社契約に質向上に関する項目追加 継続 2) 多様な方々が来館しやすくなる施策を実施 ・団体・2団体に事前レクチャー 3) パンフレット等整備 ・通常業務実施 4) 植物、ソファ等設置 ・12/26-17門松	
			②顧客サービスの拡大:市民協働	—	—	—	—	
			③館内配布パンフレットやサイン	—	—	—	—	
			④季節感あるおもてなし	—	—	—	—	
			□展覧会来館者アンケート「スタッフの対応」評点	4.00以上	4.27	B	—	
	□展覧会来館者アンケート「使い勝手のよさ、清潔さ」評点	4.30以上	4.51	A	—			
	(2) ショップやカフェの付加価値の向上	●ショップ	—	—	—	—		
		・コレクションを活用したオリジナル商品	1商品/年	3商品/年	A	・12/15:ビール3種		
		・企画展関連商品コーナー	1回/企画展	1回/企画展	B	—		
		・【追加実績】	—	1件	A	・9/1館長著書コーナー		
		●カフェ	—	—	—	—		
・コレクションを活用したオリジナルメニュー		1商品/年	1商品/年	B	・11月:1商品			
4 その他の業務	(1) 適正な施設管理	●大規模改修:大規模改修の実施に向けた市と協働	実施	実施	B	—		
		●日々の適正な施設管理:安全管理事故	0件/年	0件/年	B	—		
		●災害対応	—	—	—	—		
		・マニュアルの最新化と共有	1回/年	1回/年	B	・5月		
		・訓練	2回/年	2回/年	B	・10/21,1/26		
		●ファンディング	—	—	—	—		
	(2) 経営基盤の強化	・法人協賛制度支援者	前年度同数/年	前年度4社/年	B	・実績3社(目標7社) *コロナ禍影響*		
		(3) 人材強化	●芸芸員、エデュケーター育成	実施	実施	—	・財団スケジュールに従い実施	
			●市の政策と事業の相互連携:政策経営協議会	4回/年	2回/年	—	・8/24,12/22 *コロナ禍影響*	
			●外部意見の取入れ:外部有識者を交えた教育普及企画運営会議	1回/年	0回/年	—	*コロナ禍影響*	
			●年報発行	1回/年	1回/年	B	・11/30発行	
5 人員計画	過去の実績を踏まえ、高い専門性を発揮できる組織として、事業展開と施設の安全安心な運営を強化	46人	52人	—	—			
		・館長 1人	・館長 1人	—	—			
		・副館長2人	・副館長 2人	—	—			
		・グループ長5人	・グループ長 4人	—	—			
		・チームリーダー9人	・チームリーダー 9人	—	—			
		・担当リーダー→職員29人	・担当リーダー→職員36人	—	—			
		6 留置事項	協議及び損害賠償の取扱い 法令の遵守と個人情報保護	業務の基準に基づいた適正な取扱い	実施	実施	—	
				コンプライアンス窓口を設置し対応	実施	実施	—	・財団にて設置済
				個人情報保護研修	1回/年	1回/年	B	・1/22 全職員実施
				財団事務局に情報公開窓口を設置し対応	実施	実施	—	—
				横浜市や関連機関との連絡緊密化	実施	実施	—	—
				法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施	実施	実施	—	—
7 特別事業	大規模改修	実施設計および引越しについて、市の計画に基づいた迅速な対応と協力	実施	実施	—			
		夜間開館	企画展会期中の毎金土夜	実施	未実施	—	・10月ヨトリで実施 *コロナ禍影響*	
8 収支計画	収入	指定管理料	1,038,783,000	999,780,424	—			
		利用料金収入	62,398,000	27,556,989	—	—		
8 収支計画	費用	自主事業収入	92,296,000	68,069,080	—	—		
		横浜市費用負担	0	5,317,000	—	—		
		雑入	72,038,000	47,081,020	—	—		
		合計	1,265,515,000	1,147,804,513	—	—		
		人件費	362,905,000	358,830,802	—	—		
		事務費	12,895,000	9,273,066	—	—		
		事業費	210,554,000	175,833,780	—	—		
		夜間開館事業費	39,366,000	357,424	—	—		
		移転関係費	224,000,000	224,000,000	—	—		
		管理費	228,272,000	208,631,448	—	—		
		公租公課	40,407,000	40,363,350	—	—		
		事務経費	147,122,000	124,026,749	—	—		
合計	1,265,515,000	1,141,316,619	—	—				

自己評価		評価		行政評価
【成果】	【課題】	【更なる取組を期待する点】	【更なる取組を期待する点】	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来館者サービスとしては、コロナ禍に際し順次再開する各事業での必要な対策を講じました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 来館者サービスについては、新型コロナウイルスへの対応等、鑑賞環境などの変化に柔軟に対処していくことが重要であると考えます。また、ショップ・カフェについては、再開を見据えて、ブランドギャラリー等の他機能との一体性を考慮しながら、サービスを向上させていくことが課題となります。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館を経ての再開に当たり、出入口には、消毒給や非接触型体温計等に加えてサイネージ型サーモグラフィを導入し、来館者の検温や消毒を徹底するなど、安全・安心の観点に立った施設利用環境を整えたことを評価します。 ショップ・カフェ事業では、企画展における関連商品や関連メニューをショップやカフェで取り入れたほか、館長著書コーナーを設けるなど、新型コロナウイルスの影響を抱えながらも活性化に努める姿勢が目立ちました。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響があったとはいえ、企業連携プログラムHeart to Artは大幅に減少しました。大規模改修に向けた、今後の積極的なブランドライジングの取組に期待します。 引き続き、大規模改修後を見据えた来館者サービスの体系の整理をしていただくことを期待します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業連携プログラムHeart to Artについては、コロナ禍により3社に留まり、昨年度と比して4社減、目標未達成となりました。 大規模改修後は、設備更新による経費節減効果が見込まれる一方、収蔵庫、エレベーター、アートギャラリー-3(仮称)等の増設により新たに発生する光熱水費や保守点検の費用があり、効率的な施設管理と財源確保が課題です。 	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍を踏まえ、市と協議しながら、業務遂行しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再開を見据えて、政策経営協議会などを通して、市と館の運営について課題を共有し、連携を図ることが重要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により、政策経営協議会の開催数は減少しましたが、大規模改修やそれに伴う事務所移転等の諸課題への対応は、日ごろからの連絡調整により、差し障りはありませんでした。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後を踏まえた組織編成の検討を期待します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、施策を検討します。 	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画通り進捗しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 限られた人員体制の中で館の効率的な運営を行うためのマネジメントや人材育成が必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画通り進捗しました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大規模改修後の横浜美術館の姿を描き、施策を検討します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夜間開館は、新型コロナウイルスの影響で令和2年度はヨコハマトリエンナール開催期間の最終盤の実施にとどまりました。今後、大規模改修後を見据えた取組の検討を期待します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全な経営に向け、特に収入面で補助金等の外部資金を積極的に活用する視点も必要です。 	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収入については、全館休館による事業収入減があったほか、新型コロナウイルス対応による指定管理料(夜間運営費)の精算という減収要因があった一方、補助金を積極的に獲得するなど、増収に努めました。支出については、事業減による関連費用の大幅減があったほか、光熱水費などを縮小させ、全体として黒字決算につながりました。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全な経営に向け、特に収入面で補助金等の外部資金を積極的に活用する視点も必要です。 	<p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収入については、新型コロナウイルスの影響により、自主事業収入、利用料金収入、ショップ・カフェ等収入のいずれも減収となった中で、文化庁の文化観光拠点計画(文化クラスター推進事業)や感染症防止対策事業の補助金を積極的に活用した点を評価します。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は大規模改修に伴う仮拠点への移転があり、移転関係費が大幅に増加します。適切な管理、執行をお願いします。 	<p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度は大規模改修に伴う仮拠点への移転があり、移転関係費が大幅に増加します。適切な管理、執行をお願いします。 	

令和2年度 横浜美術館指定管理者業務評価表（自己評価・行政評価）

使命

- (1) 国際都市横浜の美術の拠点として、社会に新しい価値を提案する創造性と発信性の高い、世界から多くの人が訪れる魅力的な美術館になります。
- (2) 美術品や関連資料について、調査・研究を行い、的確に評価して新しい価値を市民に伝えるとともに、収集、整理、保管、活用し、未来に継承します。
- (3) 未来を（な）子どもたちの感性を育む美術教育を通して次世代の美術を振興すると同時に、美術を支える人材育成と多様な人々への美術の普及に取り組みます。
- (4) 文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会や市民生活に貢献する活動に取り組み、創造的で多様性豊かな社会の形成に貢献します。

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

項目	目標の実践	目標項目		実施状況 特記事項
		目標水準(年度計画)		
総合				

自己評価	評価	
	自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <p>本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、昨年度末の2/29から5/31まで全館臨時休館となり、その後は事業毎に会場の消毒やオンラインでの事業実施など必要な対策を講じて順次再開しましたが、今年度末まで再開できない事業もあり、美術館活動に大きな影響ができました。</p> <p>このような中であって、横浜トリエンナーレを無事に開催し一定の評価を得ることができたこと、横浜トリエンナーレを中心に教育プログラムをいち早くオンラインで提供できたこと、コレクションにかかわる事業を計画通り進めることができたことが、今年度の成果であると考えています。</p> <p>なお、3/1より令和5年度まで大規模改修工事により全館休館しています。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの対応など鑑賞や創作環境の変化に柔軟に対応し、再開館を見据えながら、市と連携して上記各項目の課題に取り組むことが重要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館や日時指定予約の導入、徹底した感染症予防対策など、様々な変化や制約がありました。 ・このような状況下でヨコハマトリエンナーレ2020を混乱なく開催し、続くトライアローグ展も多くのメディアに取り上げられました。 ・それだけに前例のない、新型コロナウイルスの影響下での大規模な国際芸術祭、ポストコロナの時代における展覧会の在り方の1つを示すようなコレクションを中心とした企画展と、横浜美術館の存在価値を広範に示すもので、大きな成果を挙げました。 ・教育プログラムや市民協働はオンラインを活用した取組に活路を見出し、昨秋にはウェブサイトにてエデュケーション・チャンネルを立ち上げるなど、年度後半に向かってつれて充実していきました。 ・感染症対策に万全を期し、ヨコハマトリエンナーレ2020やトライアローグ展の開催中も安定して施設運営を続けられました。あまり目立たない部分ですが、令和2年度のような特殊な事態の際に、普段の取組や心構えの成果が表れたものとして評価します。 ・新型コロナウイルスの影響が年間を通して続き、減収によって館の経営が厳しい環境となる中、積極的な補助金の獲得など環境改善の努力がみられました。 ・大規模改修中の仮拠点への移転が令和3年度に行われます。仮拠点でも、横浜美術館を取り巻く様々な環境の変化に柔軟に対応しながら、存在感を発揮し、活動を広くアピールするような事業が行われることを期待します。 ・大規模改修後に向けて、長期的視野に立ち、経営環境の整備及び各事業の検討等が進むよう、さらなる取組に期待しています。 	